

● 後 が き ●

大阪大学文学部 橋 覚 勝

本号は題して「人間工学と人間関係論」という。近来の応用心理学、殊に産業面における心理学の躍進を展望しようとした。

人間工学が human engineering として、実際作業における人間能率の増進に対する諸条件を研究するという一般論から、最近の企業設備のオートメーション化に由来する情報理論にもとづく人間—機械系において、両者の接点に関する人間工学的研究、いわゆる ergonomics としての具体論へ展開しつつある現時点に直面して、いかなる知識や技術が要求されているか、さらに人事管理や労務管理が人間—社会系において切実な問題をとらえようとする human relations の研究が、さかんにおこなわれている事態において、如何なる問題や処置が考案せられるべきかということをあきらかにしようとした。しかもかかる両関係性のなかに、産業がそして企業がめざましい躍進をなしとげていることを思うとき、それを一層開発し、統整して、企業の合理化と能率化と安全化をはかることは、産業界は勿論われわれ専門的指導にたずさわるものにとっても、一様に重大な関心事でなけ

ればならないのであって、ここに産業教育の重要性がさげられる所以がある。

こういう観点から本号を編集したのであるが、本誌が両三年來もっぱら機械的な生産技術面をとりあげてきたさなかに、人間的要因をとらえた論稿をかかげて、一般の関心を大いにたかめようとした次第である。

因みに本号の執筆者を紹介しておく。

真辺春蔵氏（文博）大阪大学（教養部）教授、心理学（産業心理学特に作業照明の研究）

豊原恒男氏（文博）立教大学教授、心理学（産業心理学特に人間工学の研究）

宮脇一男氏（工博）大阪大学（工学部）教授、電子工学（制御電子工学の研究）

増田幸一氏（文博）成蹊大学（工学部）教授、心理学（産業心理学特に人事管理の研究）

太城藤吉氏 大阪大学（文学部）助教授、心理学（産業心理学特に人間関係論の研究）

細谷俊夫氏 東京大学（教育学部）教授、教育学（産業教育学の研究）